

教育学 シラバス

学校法人敬心学園職業教育研究開発センター・介護教員講習会

2021年度（第25期生）2021年9月26日～2022年1月30日 担当教員 米山 泰夫

1. 科目名 「教育学」・・・介護福祉士養成校教員のための・・・

2. 科目名 「教育学」の学びへのご招待

この授業に取り組む基本的な方針は、「講義」ではなく「授業」をすることです。ここでいう「授業」とは、国際的な意味でつかわれている「授業」と言う意味で、学生が主体的に参加する討議（ディスカッション）を中心とした「授業」を指しています。ある意味で、高等教育の課題である「考える力」を養うための、本来あるべき姿を示す「授業」です。

つまり、この授業は、「教育学」という科目の授業の目的に照らし、必要な力量を身につけることが目標です。単なる知識の修得が目標ではありません。従って、授業実践それ自体から、体験的に学ぶ部分が大きいので、授業方法は単なる講義法による授業展開をできるだけ避け、皆さんの主体性な参加を大切にした、全員が自分の見解を述べあえる授業方法をとります。皆さんは質問や意見を用意するなど、自分達で学びを創り上げていく授業に積極的に関わっていく努力が求められます。

3. 科目担当者及び学生 （授業を構成する人々）

米山 泰夫（よねやま やすお）〔元・大妻女子大学 教職総合支援センター 特任教授〕と

日々、多忙を極めながらも、明確な目的意識のもとに、介護教員または介護教員を目指す、15人の熱心かつ優秀な学生（受講生）の皆さん。

4. 日程及び、授業時間

日程・・・2021年9月26日（日）～2022年1月30日（日）のうちの5日間

授業時間・・・原則として、土日の9時30分から16時30分までとします。計30時間

他に、授業時間以外の予習復習の時間として、毎回につき2～3時間を必要となります。

回数	月日	講義内容
第1回	9月26日	<p>「教育学・・なぜ、何を、どう学ぶのか・・」</p> <ul style="list-style-type: none">・『学習』を支える『教育』（・・なぜ、何を学ぶのか・・）・この授業のガイダンス（・・どう学ぶのか・・）・授業構成メンバーの紹介
第2回	9月26日	<p>「高等教育の使命と課題・・今、高等教育に求められているもの・・」</p> <ul style="list-style-type: none">・教育学への誘い・高等教育の使命・高等教育（機関運営）の仕組み・日本の高等教育（機関）の課題 <p>《テキスト》</p> <p>◆入試改革と大学教育（原理 II 9・125-140）</p> <ul style="list-style-type: none">・次回の学習に向けて

第3回	10月31日	<p>「人間と教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習からの振り返り ・「人間にとての教育」を考える <p>『テキスト』</p> <p>◆流動化する社会と教育 (原理 I 1 · 10-23)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力とは何か」 <p>『テキスト』</p> <p>◆学習する力の新しい姿 (原理 I 3 · 37-50)</p> <p>◆新時代のティーチングとカリキュラム開発 (原理 I 4 · 51-66)</p>
第4回	10月31日	<p>「社会と教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新たな社会関係と教育」を考える <p>『参考資料』</p> <p>◆「教えて！ 2025年問題」(朝日新聞 連載記事) ～迫りくる2025年問題の課題と対応策を考える～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の学習に向けて
第5回	12月 4日	<p>「学校教育の歴史から学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習からの振り返り ・学校教育の歴史から学ぶ <p>『テキスト』</p> <p>◆子どものケアと教育 (原理 I 2 · 24-36)</p>
第6回	12月 4日	<p>「学校教育の課題と展望」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校」が抱える課題とこれからの展望 <p>『テキスト』</p> <p>◆子どもの問題行動 (原理 II 6 · 84-93)</p> <p>◆情報リテラシーの革新 (原理 II 7 · 94-110)</p> <p>◆教育の不平等 (原理 II 10 · 141-152)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の学習に向けて
第7回	12月 19日	<p>「学生をどう理解するか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習からの振り返り ・育ちゆく新しい世代 (立往生している学生たち) <p>『テキスト』</p> <p>◆キャリア教育に何ができるか (原理 I 5 · 67-82)</p> <p>◆多文化共生社会と市民性教育の接点 (原理 III 1 1 · 154-166)</p>
第8回	12月 19日	<p>「新しい教育の創造に向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育文化の再構築に向けて <p>『テキスト』</p> <p>◆女性の教育と社会参加 (原理 III 1 2 · 167-179)</p> <p>◆道徳教育の課題と可能性 (原理 III 1 3 · 180-193)</p> <p>◆宗教教育の新しい姿 (原理 III 1 4 · 194-207)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の学習に向けて

第9回	1月30日	<p>「家庭・地域における教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回の学習からの振り返り 教育における「家庭」と「地域」の役割 『テキスト』 ◆<u>教育のグローバル化は進んでいるか (原理III 15・208-220)</u>
第10回	1月30日	<p>「教員・教員養成を考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員養成・教員としての成長の課題 『テキスト』 ◆<u>教員養成改革の功罪 (原理II 8・111-124)</u> 講義全体を振り返って アンケート調査の実施

※. 学習日程は皆さんの学習状況や、社会情勢の変化、講師の（健康上の）都合などで、一部変更がありますのであらかじめ御了解ください。

※. 毎回のテーマで扱う内容に関しての、テキストの項目を示しております。『討議準備ペーパー』作成時に参照してください。

テキスト：早川操・伊藤彰浩編著 『教育と学びの原理～変動する社会と向き合うために～』
(名古屋大学出版会) 【要 購入】 (シラバスの中では、「原理」と表記しています。)

5. 授業実施方法

オンラインによる。Zoomでの開講。

詳細は、17. 本講におけるオンライン学習での学び方 を参照してください。

6. 皆さんと教員とのコミュニケーション --問い合わせ・連絡先--

○毎回の宿題（「討議準備ペーパー」の事前提出など）、授業資料やレジュメの事前送信など、かなり頻繁に皆さんと連絡を取り合うことになります。その場合のメールアドレスは、[REDACTED]を使用します。此方からのメール発信も予定されますので、このメール宛てに、できるだけ早く（このシラバス読了後ただちに）「挨拶メール」を送ってくださるようにお願いします。その際、必ず「件名」欄に、ご自分の「お名前」と「敬介教2021」とを、ご記入ください。発信人のお名前を必ず明記してください。

○ご質問や問い合わせなどのご連絡は歓迎します。できるだけ、授業時の休み時間などに捕まえていただくとよいのですが、うまくいかない場合は、上記アドレス（[REDACTED]）へ、Eメールでお願いします。個別での回答には2～3日、内容によっては1週間前後の時間を要する場合がありますのでお含みください。

7. メイン・テーマ 介護福祉士養成校教員のための「教育学」

8. キーワード

- ・教育原理・教育学原論・人間像・学校教育・知識観・学力（観）・道徳教育
- ・生涯学習・教育の機能不全・メディア革命・情報教育・ジェンダー・教育制度
- ・新自由主義教育（政策）・カリキュラム・教育課程・国民教育・市民教育・教育理念
- ・宗教教育・多文化共生教育・教育の本質・教育の歴史・教員養成・学習指導
- ・生活指導・進路指導・特別活動・特別支援教育・教育行財政・家庭教育
- ・子どもの成長と発達・子どもの生活・地域での教育（主な項目のみ）

※授業終了時に理解している（説明できる・その単語を使って物事を語れる）べき単語（学びの糸口になる・資料検索時に活用できる単語）

9. 授業の目的と達成課題

（介護福祉士養成校の教員として必要な）「教育学についての基本的な知識や技術及び教育学に関する基本的な概念や用語について（「教育方法」・「教育評価」・「介護教育方法」の履修と併せて）理解し、それらの用語や概念を実践的に活用できるようになることが授業の目的です。

10. 授業の形式・授業の方法

- A. この授業は、「教育学」という科目的授業の目的に照らし、必要な力量を身につけることが目標です。単なる知識の修得が目標ではありません。（使えない知識を学んでも意味がありません。）
- B. 従って、授業実践それ自体から、体験的に学ぶ部分が大きいので、授業方法は単なる（あまり望ましいとは言えない授業方法である）講義法による授業展開をできるだけ避け、皆さんの主体性な参加を大切にした、全員が自分の見解を述べあえる授業方法（アクティブラーニング）をとります。皆さんは質問や意見を用意するなど、自分達で学びを創り上げていく授業に積極的に関わっていく努力を丁寧に続けてください。
- C. この授業では、授業時間のかなりの部分が討議で割かれます。従って、討議に参加する準備として、討議の準備のためのペーパーを毎回提出していただきますので、指定された方法で準備してください。

★『討議準備ペーパー』

- 毎回 A4 用紙 1～2枚に、指定されたテーマで自分の意見をまとめてくる。（1200字以上）
 - 自分の意見をまとめる時に、「12. 每回の授業予定」に指定されている文献を参照して、その内容に対してのコメントを含めてまとめること。（他の文献を参照するのも大いに可です。いずれにせよ他の場合もエビデンス（根拠・論拠）を重視します。自分の思いだけを述べても、討議準備ペーパーとしては不十分だということ。）
 - 提出は、授業実施日の前日の午前 9 時までに、指定アドレスに送付すること。（ワード文書で A R 丸ゴシック体の 10. 5 P を使って送ってください。（エクセル・P D F は不可。）
 - 皆さんから提出された「討議準備ペーパー」は、授業当日の「授業資料」としてまとめ、整理して、皆さんの方に添付ファイルとして返信いたします。
- D. そこで、皆さんに大事なお願いがあります。「4. 日程及び、授業時間」にも記載されている通り、第2回の9月26日（日）の「講義内容」のところに、「◆入試改革と大学教育（原理 II 9・125-140）」という記述があります。これは、テキストの『教育と学びの原理～変動する社会と向き合うために～』（早川操、伊藤彰浩編著・名古屋大学出版会・2015年刊・￥2700）の本文「第II部 第9章 入試改革と大学教育 -選抜から教育へ」（125-140 ページ）をよく読み、「討議準備ペーパー」を作成し、授業実施日の前日の9月25日（土）午前9時までに、指定アドレス（[REDACTED]）に送付することを意味しています。今回、このテーマについては、受講生全員から提出していただきますが、次回からは複数のテーマの中から任意の一つについて選んでいただき、取り組んでいただくこととします。詳細については、9月26日（日）の授業の中で、お話をさせていただきます。

11. テキスト・参考文献・教材

テキスト・・・[要 購入]

早川操、伊藤彰浩編著『教育と学びの原理～変動する社会と向き合うために～』

名古屋大学出版会・2015年刊・￥2700

（シラバスの中では、「原理」と表記しています。）

サブテキスト・・・

安彦忠彦ほか編著『よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房・2012年刊・￥2600

(シラバスの中では、「原論」と表記しています。)

参考文献・・

柴田義松著『現代の教育危機と総合人間学』学文社・2006年刊・¥2000

絹川正吉著『大学教育の思想—学士課程教育のデザイン』東信堂・2006年刊・¥3000

汐見稔幸ほか編著「よくわかる教育原理」ミネルヴァ書房・2011年刊・¥2800

(「教育方法」・サブテキスト)

田中耕治ほか編著「よくわかる授業論」ミネルヴァ書房・2007年刊・¥2600

(「教育方法」・テキスト・「介護教育方法」サブテキスト)

川廷宗之編著「社会福祉士養成教育方法論」弘文堂・2008年刊・¥4200

川廷宗之編著「介護教育方法論」弘文堂・2008年刊・¥3800 (「介護教育方法」・テキスト)

D.W.ジョンソン他著『学生参加型の大学授業』玉川大学出版部・2001年刊・¥3500

梶田叡一著『教育評価—第2版補訂2版』有斐閣・2010年刊・¥2376

(「教育評価」・テキスト)

田中耕治編著『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房・2005年刊・¥2500

(「教育評価」・サブテキスト)

川廷 宗之著『社会福祉教授法』川島書店（入手は古本屋さんへ）

大学セミナーハウス 編『大学力を創る・FDハンドブック』東信堂

1 2. その他の教材

この他にも、「教育学」や「教育原理」に関する文献・図書は多数あります。良質の本は智恵の宝庫です。いろいろな発見や出会いがあるはずです。多忙とは思いますが、ぜひ試みに読んでみてください。

1 3. 他の授業との関連

「教育学」についての基本的な知識や技術及び教育学に関する基本的な概念や用語については、「教育方法」・「教育評価」・「介護教育方法」といった科目と密接な関連があります。皆さんには、学んだそれらの用語や概念を深く理解し、実践的に活用できるようにしていくことが求められます。

この科目は、教育基礎分野として、教育学（教育の全体像の理解）・教育方法・教育心理（教育対象者の理解・特に青年期の）・教育評価の4科目で構成される分野の一環です。従って、この4科目を含めて包括的な理解に留意してください。

「教育学」の学び方はいろいろとありますが、この講習ではいわゆる「教育原理」と呼ばれてきた内容を中心に学びます。類似科目に「教育学原論」などもありますが、「教育方法」を別科目で学びますので、「原理」中心でよいと考えています。近年の教育学の世界では、「教育方法」や「教育評価」が花形ですが、その前提としての「教育原理」は、社会システムが激変する中でその重要性を増していると考えるべきです。

なお、これら教育系科目は、当然「介護教育方法」に結実していきます。「介護教育方法」これらの教育学系科目での学びを駆使して応用的実践的に学んでいただきたいと考えています。言い換えれば、これらの教育学系の科目の内容を理解していないと、「介護教育方法」の授業内容の理解が極めて浅いものになってしまうと考えられます。その点について特に留意し、教育学など、関係科目の理論も実践的に理解するようにしてください。

1 4. 成績評価の方法・採点基準

「介護教員講習会」の開催要項に従い、成績評価については行わず、講習修了認定という形を取ります。従って、この科目的単位認定（修了認定）は、最後まで出席を継続すること（全日程の出席）により認定さ

れます。したがって、出席については丁寧に確認し、厳格に管理してまいります。

(本来この講習は、現職教員の再研修プログラムとして始まったため、「修了認定しない」という選択肢はありませんでした。しかし、近年次第に資格認定講習になってきているので、単位認定システムは今後、大幅に改善されていくものと確信しています。)

しかし、講習修了認定と判断する根拠を示すため、あえてこの「教育学」の評価を行うこととしました。この科目的成績評価は、

- a 毎回の授業における意見発表や参加度の評価
- b 每回の宿題（討議準備ペーパー）作成、提出状況やホームワークの作成状況
- c 『この授業を受けて明らかとなった私の課題と、その改善方法』（2000字程度を目安）についてのレポート提出、

の3つで評価します。比重は、a 20% b 45% c 35%です。

なお、cのレポートは、授業終了後2週間以内に提出、提出先は追って連絡します。

○知識量の試験は含まれていない点に注意してください。上記の評価項目のa～cのいずれにも、特にcは、基礎知識がないと対応できません。一つ一つの知識を実質的に活用できるように理解しているかどうかは、これらで十分に評価可能なのです。

○成績評価を行う場合は、ライセンスにつながる評価の場合と、単なる評価でよい場合とでは、評価方法や評価基準に違いがあることに留意することが必要です。本来はこの科目は、ライセンスにつながるので、本来は、しかるべき基準での評価を行うべきであろうと考えています。

15. 毎回の授業予定と主題 全30時間・課程

詳細については、4. 日程及び、授業時間 の項目を参照してください。

○学習日程は皆さんの学習状況や、社会情勢の変化、講師の（健康上の）都合などで、一部変更がありえますのであらかじめ御了解ください。

○毎回のテーマで扱う内容に関しての、テキスト・サブテキストの項目を示しております。『討議準備ペーパー』作成時に参照してください。

テキスト：原理 = 『教育と学びの原理』（名古屋大学出版会）[要 購入]

サブテキスト：原論 = 『よくわかる教育学原論』（ミネルヴァ書房）

16. ホームワーク

毎回、『授業資料』の形で授業時に使う資料を配布する（メールで配信する）予定です。又、皆さんのが自分の意見を提案し、討議する授業展開ですので、皆さんのが作成する「討議準備ペーパー」等も配信されます。これらの資料は、その後の授業でもしばしば「振り返り」で使うので、使いやすい状態（プリントアウト）にして、必ず毎回手元に置いてください。（なおこれらの資料は、全部最初からの通しでページ番号が打たれるので、授業中はそのページ番号で資料を扱います。）

※ 学習内容に関するポートフォリオを纏（まと）めていく。（最近の教員にとってはとても大切なことです。）

※ 授業とは、皆で、自分たちの学びを（自分だけの）1冊の本をまとめていく過程とも言える。

（シュタイナーの小学校教育から引用）

○以下は、「教育方法」、「介護教育方法」担当の川廷宗之先生からのホームワークに関するメッセージです。私の同感です。

毎回の授業で取り上げるテーマや関連文献の箇所は予告されています。従って、

第一のホームワークは、その箇所について授業前に通読し、質問の箇所をチェックしてくることです。授業に出席するためには当然のことですが、これをしてもないと、この授業で身に付けられる内容が全く異な

ります。(予習をしてこないために、授業内容が身につかない分は、受講生の責任範囲です。・・製造物責任の除外範囲の指定・・教員側は責任を負わない範囲)

第二のホームワークは、毎回の授業で出題される課題への対応です。多くの場合この課題は自分にとっても、ともに学ぶ仲間にも大きな意味を持ちますので、必ずやってきてください。但し、特殊事情があってできなかった場合も、その旨説明するとともに、学習の場で然るべき役割を取ればよいのですから、欠席をしないようにしてください。

17. 本講におけるオンライン学習での学び方

(1) メールによる情報交換・・

この授業では、受講生一講師間での、授業資料の送付やレポート類の提出を、メールにより添付文書として送る方法で行います。

そのため、このシラバスを読了後、ただちに、お手数ですが、受講生の皆さん、この講座の受講で使用されているアドレスから、必ず [REDACTED]宛てに「挨拶メール」を送ってくださいよう、お願いいたします。その際、必ず「件名」欄に、ご自分の「お名前」と「敬介教2021」とを、ご記入ください。発信人のお名前を必ず明記してください。

(このアドレスは、受講期間中、講師のみが使用するものとします。受講生同士の意見交換等は是非行っていただきたいのですが、その場合の連絡先の交換は、受講生同士で行ってください。Zoom のチャットなどをご活用ください。)

(2) Zoom での参加について

①この講座は、Zoom で参加いただいているが、ウェビナー方式ではなく、ミーティング方式での参加になっています。これは、「インタラクション（意見交換など）のない授業は『授業』ではない。」という、最近のアクティブラーニングの考え方を反映しているためです。（この詳しい内容説明については、授業中に触れます。）というわけで、この授業は単に聞くだけではなく、「参加」が前提です。また、受講生同士での意見交換の機会を多く設けますので、是非、ともに学ぶ仲間を増やしてください。

②したがって、授業中は基本的に、映像を「オン（On）」にしてご参加ください。待ち受け（静止）画面での参加は、授業に参加しているとは認められませんので注意してください。)

③音声は騒音が入ってしまうと困るので、原則ミュートにしておいていただきたいのですが、状況（必要）に応じてすぐにミュートが解除できるようにしておいてください。

④講義中に質問や意見等がある場合は、チャット機能を使って質問（意見）を送るか、発言したいという意思表示を行ってください。（ご発言がいただけるよう、こちらから指名します。）手を挙げて連絡してくださるのも「可」ですが、こちらでは一人一人の画像が小さいので、すぐに気付けなかったり、見落としてしまう場合がありますことをご留意ください。

⑤授業中に「画面の共有」として、資料（原則として事前配布）提示を行う場合が何度もあります。できるだけ大きな画像として見られるようにしたり、事前にプリントアウトして紙ベースで手元に置いたり、各自で工夫して、見やすい（使いやすい）状況を作りて授業にご参加ください。

⑥授業を進めながら、この授業での Zoom への参加の仕方や、守るべき内容等について、皆さんとともに、一定のルールを作っていくみたいと思いますので、いろいろな意見や考えをご提案ください。

⑦この「教育学」の授業の Zoom のミーティングIDとパスコードなどは以下のとおりです。

（全10回を通じて同じです。）

この「教育学」の授業の Zoom のミーティングID・・「　　」

この「教育学」の授業の Zoom のパスコード・・「　　」

18. 一層の学びを深めたい人のために

具体的には、各授業の中で、いろいろとお話をさせていただければと思います。